

コラム

腰折れ文〈十〉

渡邊澄子（会員）

「北の桜守」観てきました。演劇を導入した映画の手法で、期待したほどではなかった。今回も話したい事が多すぎて……。仕方なく簡略にかいつまんで。

まず、連日報道の加計・森友・日報問題。抗議の集會に四月十四日、五万人が国会前に、その他の地でも随所で開催されたという。次々に文書が出てきて、常識ではもはや安倍政権は絶体絶命だが、安倍氏一派は厚顔で手強い。愛媛県の職員の文書に嘘を書く理由も必要もないのに否定している。優秀な最高級官僚が記憶に無いなんて！ 百歩譲って記憶喪失していたとしてもその場をノートしたものがほろが確かだ。野党の昭恵氏証人

喚問要求に、首相が妻の代弁は私がすると言ったが、妻の人格無視ではないか。彼女は名誉職五十五という。首相の妻の権威の妻さには驚くが、それほど力量がある人ならば堂々と国会で証言すれがよい。公文書や資料の改竄・隠蔽が次々発覚しても責任をとろうとしない政治の世界に怒り心頭だが、それが続きすぎて慣れてしまうのを心理学では「馴化^{じゆんか}」という（香山リカ「琉球新報」）。墮落しきった公僕を擁する米国追隨の政権支持者が結構多いのは馴化現象なのだろう。

米軍普天間飛行場の返還合意から二十二年になるが米軍機の離着陸が繰り返され事故が頻発し、騒音は激化しているが、地位協定に阻まれて県民は命の危険にさらされていても、政府は法治国家と言えぬ対応で、辺野古基地推進を強引に進めている。沖縄県民の怒り、不安、苦悩を思うと、戦争末期、人柱にしたのにその犠牲に対する反省も謝罪も賠償も無く人柱続は、政府も国民多数も「馴化」しているからか。

米英仏がシリアの化学兵器関連施設を攻撃強行したが、アサド政権が化学兵器を使用した明確な証拠や国連安全保障理事会の決議はなく、法的根拠も乏しく正当性を欠くという。安倍氏は軍事攻撃に賛成しているがトランプという人が不得要領で大統領になったのが私には腑に落ちず信頼を欠く。プーチンの場合にも言える。76・66%の得票率で四選圧勝だったが、投票所では一人が票を四枚も五枚も受けとって投票している場面が堂々

とテレビに映し出されていて、開いた口が塞がらない不正選挙だ。ロシアって、これ平気？ 茶飯事？ モリ・カケ事件で不正が罷り通っていたことを知らされたがロシアを笑えない酷さだ。京大や法政などは拒否したが軍事研究に奨学金や補助金を出す政府の露骨な施策は文系排除の背面での軍事費激増と相俟って日本の行路への危惧感が増幅される。

人の命よりも女人禁制の相撲の伝統が大事とは何てこと！ 「昨年十月 待機児童五万五千人」の記事下の広告に「真子さまデート厳禁！ 小室家警備員月額七百万円のお然 これって血税！」には、えっと声をあげてしまった。税金の使われ方にごだわってしまう。ご逝去後も関連記事がずっと載り続けている水俣病患者と共苦し続けた石牟礼道子さんへの哀悼の念を結語とせざるを得ない。

し、騒音は激化しているが、地位協定に阻まれて県民は命の危険にさらされていても、政府は法治国家と言えぬ対応で、辺野古基地推進を強引に進めている。沖縄県民の怒り、不安、苦悩を思うと、戦争末期、人柱にしたのにその犠牲に対する反省も謝罪も賠償も無く人柱続は、政府も国民多数も「馴化」しているからか。